

学 校 教 育 目 標	考える子（考える力づくり） 思いやりのある子（仲よしづくり） がんばりぬく子（体と心づくり）
目 指 す 学 校 像	一人ひとりが輝き、学ぶ喜びと笑顔があふれる学校

重 点 目 標	1 確かな学力の定着を目指す学校づくり 2 友愛の心をはぐくむ学校づくり 3 地域とともにある学校づくり 4 安全で美しい学校づくり 5 教職員の育成などを推進する学校づくり
---------	---

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学びの質の向上に関する取組】 〈現状〉 ○授業では、意欲的に取り組む児童が多くいる一方、集中力を欠いてしまう児童も少なくない。 ○R7さいたま市学習状況調査の結果では、現4・5年生（国語・算数）、現6年生（国語・算数・社会・理科）の平均正答率は、市平均正答率をほぼ下回っている。 〈課題〉 ○学ぶ楽しさや学びへの興味・関心を高め、学びの達成感や充実感を味わえるようにする必要がある。 ○反復と習熟の時間や学びを振り返る時間を確保し、粘り強く学習に取り組む指導を推進する必要がある。	○カリキュラム・マネジメントの視点に立った授業改善	①個に応じた細やかな指導と支援をし、努力する姿や態度を繰り返し称賛する。 ②めあてを明確にし、振り返りを行う。 ③ドリル等を活用して繰り返しの学習に計画的に取り組めるようにする。 ④学力向上カウンセリング研修と各学力調査の結果分析に基づいた授業改善を行う。	・児童の学校評価 No2「分かりやすく楽しい学習」と、No3「基礎的な計算や漢字の定着」で肯定的評価がともに昨年度より2%以上向上できたか。 ・学力向上カウンセリング研修と学力調査の分析に基づく授業改善の方策を立て、実践することができたか。					
		○ICTを活用して、学ぶ楽しさを実感できる授業の充実	①学習用端末を活用し、意見交流など児童同士が学び合う授業を行う。 ②学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れ、学ぶ楽しさを実感できる授業を行う。	・児童の学校評価 No4「考える力と学ぶ力」と、No10「学習用端末を活用した授業」で肯定的評価がともに昨年度より2%以上向上できたか。					
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 〈現状〉 ○楽しそうに学校生活を送る児童が多く見られる。R7児童の学校評価「登校が楽しい」の肯定的評価は約80%となっている。 ○月1日の教育相談日の設定やSCやSSWとの相談を進めている。 〈課題〉 ○相手の気持ちや人権を考え、良好な友達関係を築くことが必要である。また、保護者との連携も大切にし、共通理解のもと指導を行う必要がある。 ○学習や友人関係等によるストレスを抱える児童がいるため、迅速に支援・相談できる体制が必要である。	○児童一人ひとりに寄り添った教育支援と相談に向けた校内体制の充実	①担任や学年の教員、専科教員等複数の教員で児童の様子を見守る体制を整える。 ②SSDBや各種アンケート等を活用して児童の様子を把握し、個に応じた支援と相談を速やかに行う。 ③Sola るーむを活用して、児童の安心・安全な居場所の確保と、学習支援を行う。	・児童の学校評価 No8「先生への相談」で肯定的評価が昨年度より2%以上向上できたか。 ・いじめをはじめ友人関係の問題や悩みを覚知した際には、速やかに「報・連・相・見守り」のもと組織的に対応することができたか。					
		○教育的ニーズに基づいた指導と支援の充実	①児童理解や保護者との相談を通じて、児童理解や教育的ニーズを把握し、複数で指導と支援の仕方を考える。 ②SCやSSW、関係機関と連携して、指導と支援の方法の改善を行う。 ③指導と支援について教職員研修を行う。	・指導と支援の仕方の話し合いを継続的に実施できたか。 ・SCやSSW、関係機関と連携して、指導と支援について改善を行うことができたか。					
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 〈現状〉 ○学校運営協議会にて、目指す児童像の姿について熟識している。 ○連絡ツールの活用やブログの開設により、学校の様子の伝達について、R7保護者の学校評価では肯定的な回答が約91%となっている。 〈課題〉 ○学校運営協議会における熟識を踏まえ、具体的な活動に取り組んでいく必要がある。 ○R7さいたま市学習状況調査の質問項目「地域との関わり」では、市平均より下回る結果となっている。	○学校運営協議会とSSN等との連携と協働の推進	①学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場を作り、地域をよくしていこうとする気持ちを醸成する。 ②保護者や地域の方と連携したあいさつ運動などの取組を実践する。	・学校運営協議会に1回以上児童が参加し、地域の方への感謝の気持ちや社会参画の意識が醸成できたか。 ・保護者や地域の方と連携したあいさつ運動など取組ができたか。					
		○地域に対する誇りを育む教育活動の推進	①地域の人材や教育資源を活用した教育活動を展開する。 ②地域の行事に参加し、家庭・地域と顔の見える関係を構築する。 ③学校Webページやブログを更新し、教育活動の発信を行う。	・地域人材や教育資源を活用した教育活動の広がりができたか。 ・家庭・地域・関係園と職員等との顔の見える関係づくりができたか。 ・保護者の学校評価No10「学校の様子の発信」の肯定的評価が昨年度より2%以上向上できたか。					
4	【教育環境整備に関する取組】 〈現状〉 ○開校50周年を迎え、校舎内や体育館内で修繕を必要とするところが多く見られる。 ○校庭は広く、伸び伸びと活動できる。 〈課題〉 ○じょうほくの森の樹木などの剪定が必要である。 ○児童や教職員等の安全を考慮しつつ、教育委員会と連携を図りながら環境整備を進める必要がある。	○安全・安心で落ち着いた教育環境整備の推進	①教育環境の整備と教材の充実に向け、全職員で校舎内や教材等の整備を実施する。 ②安全と明るさを確保するため、樹木剪定を進める。	・校舎内や教材の環境整備ができたか。 ・教職員の学校評価「環境整備」において、肯定的評価が3%以上向上できたか。					
		○児童を見守る体制の強化	①危機管理マニュアル等を活用した、児童への安全体制を強化する。 ②関係機関と連携した各訓練を着実に実施する。	・危機管理マニュアルが各教室等に配置できたか。 ・昨年度より改善した各訓練ができたか。					
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 〈現状〉 ○経験の浅い教職員が多く、中堅・ベテラン教職員の助言・指導の下、児童の指導に当たっている。 ○昨年度の教職員の意識調査で仕事に対してやりがいをもっている教職員は約96%であった。一方で業務に負担感や多忙感をもっている教職員は約89%だった。 〈課題〉 ○経験の浅い教員もおり、児童の実態を踏まえ、一人ひとりの教職員の指導力を高めることが必要である。 ○教育活動の充実と教員の働き甲斐・働きやすさの両面から、学校の様々な教育活動を見直す必要がある。	○やりがいと働きがい高め る働き方改善の推進	①年間行事や日課表等を見直し、ゆとりある勤務体制を構築する。 ②ICTを活用した授業や業務を推進する。 ③教職員同士のコミュニケーションを大切にし、業務の分担を進める。	・教職員のストレスチェック総合健康リスクの項目で昨年度より2ポイント下がったか。 ・教職員の意識調査で業務に負担感や多忙感の項目で昨年度より2%下がったか。					
		○教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上	①こまめな教室訪問やコーチングを心掛け、教職員のよさを高められるようにする。 ②相互授業参観を着実に実施する。 ③数年先の姿を共有し、受講奨励を進める。 ④運営委員を要とした教育活動を進め、ミドルリーダーを育成する。	・教室訪問や授業参観を通して、一人2回以上フィードバックができたか。 ・個々に応じた受講奨励ができたか。 ・年間を通して、新たなミドルリーダーを育成することができたか。					